

笹川陽平（ささかわ ようへい）

日本財団 会長

笹川平和財団 名誉会長

笹川陽平オフィシャルブログ：<http://blog.canpan.info/sasakawa/>

1939年1月8日 東京生まれ



アジア最大規模の財団のトップとしてアジア、アフリカ、南米などを訪れ、国際的な課題解決に力を入れている。徹底した現場主義にもとづく草の根の取り組みを続ける一方、各界の世界的リーダーとのネットワークを駆使し、具体的な成果にこだわる活動を信条としている。海外での活動は年間120日以上にのぼる。

人類の歴史上最も古くから知られ、恐れられてきた病気のひとつ、ハンセン病の制圧にむけて40年以上にわたり世界各地の療養所を訪問するなど現場での活動を続けている。病気の制圧だけでなく、長年厳しい差別に直面してきた患者や回復者の人権回復を国際社会に働きかけ、国連総会で「ハンセン病差別撤廃決議」の採択を実現させた。

海に囲まれた日本にとっての海洋の重要性を提唱し、日本財団として、これまでに140カ国1200人を超える海洋専門家を養成してきた。2018年には、現在15パーセントしか解明されていない地球の海底地形図を完成させるという世界初の試みをスタートさせた。

70年以上にわたって内戦が続くミャンマーでの国民和解に向け、日本政府代表として中央政府と少数民族武装勢力の話し合いの仲介役を務めている。少数民族武装勢力の支配地域で復興支援活動が許される外国の組織は現在、日本財団だけとなっている。

国内では障害者への支援を幅広く展開するほか、生きにくさを抱える子どもへの支援や、パラリンピックに向けたパラスポーツの支援と啓発活動など、インクルーシブな社会の実現に向けて精力的に取り組んでいる。

国際法曹協会「法の支配賞」（2014）、国際海事機関「国際海事賞」（2014）、ガンジー平和賞（2018）、文化功労者(2019)、旭日大綬章(2019)、など多数受賞。

著書『地球を駆けるー世界のハンセン病の現場から』（工作舎）、『愛する祖国へ』（産経新聞出版）など多数。

<主な役職>

日本財団会長（2005年7月より現職）

笹川平和財団名誉会長（2016年7月～）

WHO（世界保健機関）ハンセン病制圧大使（2001年5月～）

日本政府 ハンセン病人権啓発大使（2007年9月～）

ミャンマー国民和解担当日本政府代表（2013年2月～）

2024年10月現在

主な取り組み

●ハンセン病の制圧

40年以上にわたり、世界保健機関（WHO）、各国政府、国際機関、NGO、ハンセン病回復者団体と密接に連携し、人類最古の病気の一つであるハンセン病の制圧をライフワークとして取り組んできた。2001年からWHOハンセン病制圧大使を拝命して以来、1年の約3分の1を現場での活動に充てている他、国連人権高等弁務官事務所に働きかけ、当時の国連人権委員会ではハンセン病を人権問題として取り上げられるようになった。こうした活動が認められ、笹川は2007年に日本政府よりハンセン病人権啓発大使に任命された。その後、笹川の呼びかけに応じ、日本政府は国連人権理事会に「ハンセン病患者、回復者とその家族に対する差別の撤廃」に関する決議案を提出した。この決議は59カ国が共同提案し、2008年6月18日に同理事会加盟国により全会一致で採択された。また、この決議に基づき、理事会の諮問委員会は差別撤廃のための「原則とガイドライン」を作成し、2010年9月に国連人権理事会、12月に国連総会で決議が全会一致で採択された。このほか、ハンセン病回復者団体に積極的に働きかけ、彼らの啓発を促進し、現在までに世界で22のハンセン病回復者団体が日本財団や笹川保健財団と共に活動している。引続きハンセン病回復者の権利や、社会経済的なエンパワメント、偏見や差別の撤廃等さまざまな活動に取り組んでいる。

●障害者支援について

長年にわたり、スポーツ、芸術、教育、雇用など、さまざまな分野における障害者支援にも力を入れてきた。2020年オリンピック・パラリンピックの開催都市が東京に決定すると、国内28のパラリンピック競技連盟が日本財団ビルに事務所を開設し業務できる環境を整えたほか、活動の支援を行った。また、芸術分野においても障害者の支援を行っており、障害のあるアーティストにもっと活躍する機会を与えるべきと考え、障害者芸術祭を推進した。2022年には、これまでで最大の障害者アーティストのための芸術祭「True Colors Festival」を東京で開催し、12カ国から100人以上のアーティストを集め、4000人以上の観客と、全世界の約2万人がオンライン視聴した。また、30年以上にわたって、特に東南アジアの障害者の能力開発と社会参加を支援してきた。これまでに、3,000人以上の障害当事者リーダーに高等教育の機会を提供してきた。しかし、大学を卒業した優秀な人材が、障害を理由に仕事に就けないという課題に直面し、社会を変えるためには、社会の側でその変化を起こすことが必要という考えに至った。そのひとつが、企業との関わりであり、日本財団は、ビジネスにおける障害者インクルージョンを推進するグローバルCEOネットワーク「The Valuable 500 (V500)」との連携を開始した。そのGlobal Impact Partnerとして、Apple、Google、Microsoftなどのグローバル企業500社とともに、障害者の社会参加を促進する取り組みを開始した。また、今回のウクライナ危機では、ウクライナ、イスラエル、オーストリアの

NPO と協力体制を構築し、障害者の避難を支援した。この取り組みにより、日本財団は 4,000 人以上の障害者とその家族を避難させたほか、ウクライナ国内に留まった 1 万人以上の障害者に人道支援物資を届けるなどの活動を行った。

- 世界の海のための人材育成

1989 年に日本財団の理事長に就任して以来、世界の海を守るために、世界中の人々とのネットワークの構築及び海洋の人材育成を行ってきた。今日、海が直面している問題は、複雑で、多面的で、相互に複雑に絡み合っており、地球温暖化、海洋酸性化、漁業資源の枯渇、何百万トンもの海洋ゴミなど多様な問題に直面している。それぞれの問題に単独で取り組むことは困難であり、問題の根本的な解決につながらないことも少なくない。そこで、海洋の人材育成事業に注力し、そこで輩出された日本財団のフェローと協力して海洋の問題解決に取り組む仕組み作りを行っている。2023 年 4 月現在、150 カ国、1,600 名以上のフェローが輩出されている。海は、人類が作り出した国境に左右されず、1 つの海であるという見地に立ち、数世代先の人類が健全な海と共に生活できるよう幅広い視野を持つ次世代の人材を育成している。

- ミャンマーでの平和構築活動

2012 年 6 月、外務省よりミャンマー少数民族福祉向上大使を、2013 年 2 月にはミャンマー国民和解担当日本政府代表を拝命した。これは日本財団が過去ミャンマーで行った医療・教育分野等多岐にわたる人道的活動が評価されたもので、政府と少数民族間の平和構築なくしてミャンマーの民主化は成功しないという考えのもと、紛争の仲裁役として多様な役割を担っている。笹川は紛争の被害・影響を受けた人々に対する人道支援を続けており、この支援は、迅速に支援を必要とする人々に届いている。尚、2012 年以降、笹川は支援活動のために 150 回以上ミャンマーを訪問している。

- アフリカにおける農業支援

1986 年、日本財団は、笹川良一・会長（当時）が、ノーベル平和賞受賞者でインド・パキスタンにおける「緑の革命」の父であるノーマン・E・ボーローグ博士に、アフリカ大陸における飢饉回避のために協力することを打診し、「笹川アフリカ協会（SAA、現ササカワ・アフリカ財団）」を設立した。SAA は「笹川グローバル 2000」を管理・運営し、小規模農家を対象に、良質な種子と少量の肥料を使用した近代的な農法を指導し、生産量を 2~6 倍に増やすことに成功している。また、優れた農業技術が導入されれば、主食となる作物の収量を飛躍的に向上させ、農業のバリューチェーンを強化できることも実証している。本事業により、サブサハラ・アフリカ 14 カ国において数百万人の農民が恩恵を受けている。現在では、エチオピア、マリ、ナイジェリア、ウガンダの 4 カ国を中心に事業を展開しており、農作物の生産量とその後の加工・販売の両方を大幅に拡大に成功している。

<賞罰>

2022年5月	グローバルヘルス・リーダーズ賞(世界保健機関)
2021年2月	グラン・オフィシアル章 (エクアドル共和国)
2019年12月	フジサンケイグループ 正論大賞
2019年11月	ユルゲン・パルム賞 (国際スポーツ・フォア・オール協議会)
2019年11月	文化功労者 (日本国)
2019年5月	旭日大綬章 (日本国)
2019年1月	ガンジー平和賞 (※2018年受賞者として)
2018年4月	パラオ名誉国民
2018年4月	ロイヤル・モニサラボン勲章大十字章 (カンボジア)
2017年6月	Ocean's 8 オーシャンズエイト 賞 (ユネスコ政府間海洋学委員会)
2017年5月	保健人権大賞 (国際看護師協会)
2017年5月	Plus ratio quam vis Medal 知は力より強しメダル(ヤゲロニア大学)
2017年4月	WHO・ヘルス・フォー・オール金賞(世界保健機関)
2016年6月	ブルガリア科学アカデミー名誉メダル
2015年7月	国際海事賞 (国際海事機関) (※2014年受賞者として)
2014年10月	法の支配賞 (国際法曹協会)
2013年2月	功労金賞 (セルビア共和国)
2013年1月	ベトナム社会主義共和国友好勲章
2011年11月	カンボジア友好勲章大十字章
2011年7月	中央アフリカ共和国功労勲章コマンドール章
2010年11月	Commander of the Order of the Defender of the Realm (<i>Panglima Mangku Negara</i>) Tan Sri (マレーシア)
2010年9月	ノルウェー王国功労勲章コマンドー章
2010年7月	ミレニアム・ゴールド・メダル (エチオピア)

2010年7月 北極星勲章 コマンドール第一等級章 (スウェーデン)

2010年5月 Order of Timor-Leste (東チモール民主共和国)

2010年4月 The Grand Cross of the Order of the Falcon with Star (アイスランド共和国)

2010年4月 ダネブロー騎士勲章 (デンマーク)

2010年4月 ノーマン・ボーローグ・メダル (ワールド・フード・プライズ基金)

2010年2月 ホワイトローズ・コマンドー章 (フィンランド)

2010年1月 ロシア正教会・総主教勲位

2010年1月 ロシア自然科学アカデミー名誉会員

2009年5月 社会のための科学賞 (ハンガリー科学アカデミー)

2007年4月 国際ガンジー賞 (※2006年受賞者として)

2007年2月 北極星勲章 (モンゴル)

2007年1月 フィリピン沿岸警備隊名誉賞

2006年10月 コマンドゥール賞 (マリ共和国)

2004年10月 読売国際協力賞

2003年12月 コマンドゥール賞 (カンボジア)

2003年12月 文化功労賞 (カンボジア)

2003年9月 Officier de l'Order National (マダガスカル共和国)

2003年6月 世界海事大学・特別賞 (スウェーデン)

2001年10月 ハベル大統領記念栄誉賞(チェコ共和国)

2001年9月 ミレニアムガンジー賞 (インド)

2000年9月 グランド・オフィサー賞(ルーマニア政府)

2000年7月 アジア太平洋環境ジャーナリスト・グリーンペン賞 (フィジー)

2000年5月 メネルブ名誉勲章賞 (フランス)

1998年6月 ジョルダン・ハシュミット王国賞(ジョルダン)

1998年5月 WHO・ヘルス・フォー・オール金賞(世界保健機関)

1997年12月 中国衛生賞(中国)

1996年10月 フランチェスカ・スカリーナ勲章(ベラルーシ共和国)

1996年10月 Medal for Merits-Third Degree (ウクライナ共和国)
1996年6月 Order of Friendship (ロシア連邦)
1996年2月 金インカ賞(ペルー共和国)
1996年2月 コメンダドール賞(ペルー共和国)
1995年8月 ラ・グランド・エトワール大勲章(ジブチ共和国)
1989年1月 グラン・オフィシェ・ロードル・デュ・モノー賞(トーゴ共和国)

<名誉学位>

2023年9月 ベオグラード大学名誉博士号
2019年9月 アテネオ・デ・マニラ大学名誉博士号
2018年10月 モンゴル工業技術大学名誉博士号
2018年7月 吉林大学顧問教授号
2017年4月 ミネソタ大学名誉法学博士号
2016年6月 ソフィア大学名誉博士号
2013年1月 ヨーク大学名誉博士号
2012年10月 マラヤ大学名誉博士号
2012年7月 アワサ大学名誉博士号
2009年3月 中国・雲南大学 名誉教授
2008年11月 平和大学 名誉博士(コスタリカ)
2008年10月 中国・大連外国語学院 名誉教授
2007年9月 カンボジア大学 名誉博士
2007年9月 中国・貴州大学 榮譽博士
2007年5月 ロチェスター工科大学 名誉博士
2006年10月 中国・大連海事大学 名誉教授
2005年9月 インド・ジャタプール大学 名誉博士
2005年7月 国際海事大学連合 名誉会長
2004年11月 中国・上海海事大学 名誉教授

2004年10月 世界海事大学 名誉博士
2004年9月 中国・黒龍大学 名誉教授
2004年9月 中国哈爾濱医科大学 名誉教授
2003年11月 中国医科大学 名誉教授
2003年10月 モンゴル国・経済アカデミー 名誉博士
2000年9月 中国・延辺大学 名誉教授
2000年9月 ルーマニア・ブカレスト大学 名誉博士
2000年9月 ガーナ・ケープコースト大学 名誉博士

<著書>

2023年6月 **Making the Impossible Possible: My Work for Leprosy Elimination and Human Rights** (Hurst 社)
2021年12月 紳士の「品格」 「中国の小話」厳選 150 話 (PHP 研究所)
2021年7月 地球を駆けるー世界のハンセン病の現場から (工作舎)
2019年9月 新中国70年の変化と発展 日本人70名が見た感じた驚いた (日本僑報社)
段躍中氏編集、島田晴雄氏、近藤昭一氏らと共著
2019年5月 **No Matter Where the Journey Takes Me: One Man's Quest for a Leprosy-Free World** (Hurst 社)
2019年4月 **My Struggle against Leprosy** (Festina Lente 社)
2016年3月 愛する祖国へ (産経新聞出版)
2015年8月 紳士の「品格」2 雑学のすすめ (PHP 研究所)
2014年5月 残心 世界のハンセン病を制圧する (幻冬舎)
2012年3月 紳士の「品格」わが懺悔録 (PHP 研究所)
2010年12月 隣人・中国人に言っておきたいこと (PHP 研究所)
2010年5月 それでもタバコを吸いますか? (幻冬舎) 松沢成文・神奈川県知事と共著
2010年1月 不可能を可能に 世界のハンセン病との闘い(明石書店)
2009年8月 若者よ、世界に翔け! (PHP 研究所)
2008年11月 人間として生きてほしいから 私が見た「世界の現場」(海竜社)

- 2004年11月 世界のハンセン病がなくなる日(明石書店)
- 2004年7月 この国、あの国 考えてほしい日本のかたち(産経新聞社)
- 2003年8月 二千年の歴史を鑑として(日本僑報社)
- 1998年4月 外務省の知らない世界の“素顔”(産経新聞社)
- 1996年9月 知恵ある者は知恵で躓く(クレスト社)